

日本脳炎ワクチンの6ヶ月からの早期接種をお勧めします

現在日本脳炎ワクチンは3歳以降からの接種が勧められていますが、実際には6ヶ月から接種が可能です。

日本小児科学会は今年の3月に、6ヶ月からの接種を勧める声明を出しました。

その内容は「日本脳炎罹患のリスクの高い①日本脳炎流行地域（中国、東南アジア）に渡航・滞在する小児、②最近日本脳炎患者が発生した地域（宮城県は発生はありません）③ブタの日本脳炎抗体保有率が高い地域（宮城県は少ない地域とされています）に居住する小児に対しては、**生後6か月から日本脳炎ワクチンの接種を開始することが推奨されます。**」というものです。

日本脳炎という病気

日本脳炎は東南アジアで多発しているウイルスの疾患で、多くは豚がウイルスを持ち（犬、馬も持ちます）それをコガタアカイエカという蚊が媒介してヒトに移す病気です。日本脳炎という名前は、日本に多い脳炎ではなくウイルスが日本で見つかったことに由来しています。実際にはウイルスを持った蚊に刺されても発症するのは100～1,000人に一人ですがワクチンを受けていればほぼ100%発症しません。逆に発症すると高熱、けいれん、意識障害を起こし、死亡率は30%と高く、生存しても半数以上が脳性まひなどの重い後遺症を残す恐ろしい病気です。日本では1960年代には年間1,000人位の患者さんがいましたが、その後ワクチンの普及で激減しました。それでも中国では毎年3-5万人、インドやベトナムでは毎年3-5千人が罹患しています。日本では毎年何人かのお子さんの発症があり、3歳以下では、2009年に高知県と2011年には沖縄で1歳児、2015年には千葉県で11ヶ月のお子さんが罹患し、重症の脳性麻痺になっています。

特に最近の東南アジアとの交流の推進や、気候の温暖化による日本の亜熱帯化はこれから日本脳炎が増えてくる可能性を示唆しています。千葉県のお子さんは千葉県では25年ぶりの患者さんです。その様な理由から日本小児科学会は上記のような声明を出したわけです。

6ヶ月からの接種でも安全性は確認されており、免疫はしっかりつきます。

以上のことから当院でも3歳を待たないで日本脳炎ワクチン接種をお勧めすることにしました。BCGを終えて一か月する頃からの接種がお勧めです。詳しくはスタッフにお聞き下さい。3歳未満でも定期接種になりますので勿論料金は無料です。